

# 第3次佐賀市スポーツ推進計画（案）

2025 ▶ 2029



# 目 次

---

## 第1章 スポーツ推進計画策定にあたって

- 1 計画策定の趣旨 . . . . . 1
- ◎ スポーツの価値 . . . . . 1
- 2 計画の位置付け . . . . . 2
- 3 計画の期間 . . . . . 2

## 第2章 スポーツ推進施策の概要

- 1 スポーツを取り巻く本市の現状と課題 . . . . . 3
- 2 スポーツ推進の方向性とめざす姿 . . . . . 4
- 3 目標達成のための成果指標 . . . . . 4
- 4 スポーツ推進の基本方針と施策 . . . . . 5
  - (1) 「する」スポーツの推進
  - (2) 「みる」スポーツの推進
  - (3) 「ささえる」スポーツの推進
- 5 スポーツ推進施策の体系図 . . . . . 6

## 第3章 スポーツ推進施策の内容

- 1 「する」スポーツの推進 . . . . . 7
  - (1) 多様な形の「する」スポーツの推進
  - (2) 利用者のニーズに対応できるような環境整備
  - (3) レガシーの活用
  - (4) 「する」スポーツの情報発信
  - (5) 「する」スポーツによるまちの活性化
  - (6) 相乗効果による「する」スポーツの推進
- 2 「みる」スポーツの推進 . . . . . 16
  - (1) 「みる」スポーツの機会創出
  - (2) 観戦者のニーズに対応できるような環境整備
  - (3) 「みる」スポーツの情報発信
  - (4) 「みる」スポーツによるまちの活性化
  - (5) 相乗効果による「みる」スポーツの推進
- 3 「ささえる」スポーツの推進 . . . . . 20
  - (1) スポーツを「ささえる」人材の確保
  - (2) 「ささえる」スポーツの情報発信
  - (3) 「ささえる」スポーツによるまちの活性化
  - (4) 相乗効果による「ささえる」スポーツの推進

# 第1章 スポーツ推進計画策定にあたって

## 1 計画策定の趣旨

本市は、平成 21 (2009) 年度に「佐賀市スポーツ振興基本計画」、平成 26 (2014) 年度に「(第 1 次) 佐賀市スポーツ推進計画」、平成 31 (2019) 年度に「第 2 次佐賀市スポーツ推進計画」、(以下、「前計画」) を策定し、“市民誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことができ、いきいきと暮らしている～スポーツで「私」が輝く! 「地域」が輝く! ～”を目標としたスポーツ推進を行ってきました。

一方、国では、令和 4 (2022) 年に「第 3 期スポーツ基本計画」が発表されました。同計画では、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 (以下、「東京オリ・パラ」) のレガシーの承継・発展に加え、スポーツを通じた健康寿命の延伸や地域社会の活性化とライフステージに応じたスポーツ参加機会の拡充が重視されています。また、障がい者スポーツの推進、女性や高齢者の参加促進、国際競技力の向上に焦点を当て、さらには、学校や地域、職場でのスポーツ環境の整備や、地域間・国際間でのスポーツ交流を推進し、持続可能な社会の構築を目指すことが示されています。

本計画は、前計画の成果と課題を整理し、“スポーツの価値”に着目し、令和 6 (2024) 年に本県で開催された国民スポーツ大会 (以下、「国スポ」) 及び全国障害者スポーツ大会 (以下、「全障スポ」) のレガシーの承継・発展と上述した国の計画及び本県のスポーツ施策・取組を踏まえ、今後 5 年間におけるスポーツ推進の基本的方向性として策定するものです。

### ◎ スポーツの価値

スポーツには、自発的なスポーツとの関わり方を通して得られる楽しさや喜びなどの「スポーツそのものが有する価値」と、スポーツを通じた地域活性化やコミュニティ形成、健康増進社会の実現、経済発展、国際理解の促進など「スポーツが社会活動等に寄与する価値」があります。

本計画では、スポーツを広く捉え、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、多様な主体における「する」「みる」「ささえる」といった様々なスポーツ機会の質的向上と、プロスポーツや大規模スポーツイベント等を活用した経済的効果、社会的効果の創出を推進することで、市民のウェルビーイングの向上とシビックプライドの醸成を目指すものとします。





## 第2章 スポーツ推進施策の概要

### 1 スポーツを取り巻く本市の現状と課題

本市では、前計画期間において、子どものスポーツ推進、ビジネスパーソン・女性のスポーツ推進、高齢者のスポーツ推進、障がい者のスポーツ推進、地域のスポーツ活動により、市民のライフステージに応じた健康・体力づくりを進めるため、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツができる環境づくりを推進し、スポーツ実施者数の増加に向けて取り組んできました。

また、国スポ・全障スポに対応した施設整備として、富士しゃくなげ湖水上競技場の施設整備を行い、国スポ・全障スポ大会開催後もスポーツ合宿の誘致などを推進しています。

このように、「市民誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことができ、いきいきと暮らしている」を目指す姿として実施してきた様々な取り組みにより、「日常的に運動・スポーツをしている市民の割合（スポーツ実施率）」は増加傾向にあるものの、目標には達していない状況です。一方で、国スポ・全障スポの開催を機に、大会を支えるボランティアや市内で実施される競技の直接観戦・応援など、「する」スポーツだけでなく「みる」スポーツや「ささえる」スポーツとしてスポーツに触れる機会が増えています。

これらの取組結果を踏まえ、本市のスポーツを取り巻く現状と課題を次のとおりとします。

#### 現 状

#### 課 題

スポーツを取り巻く環境の変化	<ul style="list-style-type: none"><li>・スポーツに参画する（する・みる・ささえる）人や、スポーツに関する活動を支える担い手不足</li><li>・部活動の地域移行による受け皿づくり</li></ul>
スポーツに触れる機会の不足	<ul style="list-style-type: none"><li>・スポーツの魅力を伝える情報発信の不足</li><li>・トップレベルの選手等をみる機会や交流の場の不足</li><li>・他分野、他団体との連携</li></ul>
多種多様なスポーツへの関心の高まり	<ul style="list-style-type: none"><li>・アーバンスポーツなど新しいスポーツに対する理解の不足</li><li>・練習する場所、施設の不足</li></ul>
プロスポーツチームへの関心の高まり	<ul style="list-style-type: none"><li>・プロスポーツチームの活用</li></ul>
SAGA2024 国スポ・全障スポ大会	<ul style="list-style-type: none"><li>・大会のレガシー活用</li></ul>

## 2 スポーツ推進の方向性とめざす姿

本市の現状と課題等を踏まえ、市民のライフステージに応じた健康・体力づくりを進めるため、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも「する」「みる」「ささえる」スポーツに接することのできる環境づくりに向けたスポーツ推進の2つの方向性を示します。

### 1) 「する」「みる」「ささえる」スポーツのさらなる推進（スポーツの推進）

一人ひとりが、自分に合った形でスポーツへ関わり、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに接することができる環境づくりを推進します。

### 2) スポーツの力を地域の活性化やまちづくりに役立てる（スポーツの活用、他分野・他団体との連携）

プロスポーツチームが身近にある強みを軸に他分野・他団体との連携を生かし、スポーツを通して市民が一体感や幸福感を感じ、夢や誇りを持てるような取り組みを行います。また、スポーツで地域住民がつながることで、地域の課題解決への貢献を通じた心豊かに暮らせるまちを目指します。



## スポーツ推進のめざす姿

市民は、する・みる・ささえるのさまざまな関わり方でスポーツを楽しんでいる

## 3 目標達成のための成果指標

「スポーツ推進のめざす姿」を達成するため、次の2つの成果指標とその目標値を設定します。1つ目は、『日常的に（週1回以上）運動・スポーツをしている市民の割合』を54.5%<sup>注1)</sup>から60.0%へ、2つ目は、『「する」「みる」「ささえる」のいずれかでスポーツに関わった市民の割合』<sup>注2)</sup>を85.0%とします。

成果指標	基準値	目標値
	2023年	2029年
日常的に（週1回以上）運動・スポーツをしている市民の割合	54.5%	<b>60.0%</b>
「する」「みる」「ささえる」のいずれかでスポーツに関わった市民の割合	—	<b>85.0%</b>

注1) 令和6（2024）年実施「佐賀市民意向調査」

54.5%＝「行っている（32.8%）」＋「ときどき行っている（21.7%）」

その他の選択肢は、「あまり行っていない（21.9%）」、「全く行っていない（23.3%）」、「無回答（0.3%）」。

注2) 令和7（2025）「佐賀市民意向調査」から質問項目を新規に設定する予定

## 4 スポーツ推進の基本方針と施策

成果指標目標値達成に向けて、「する」「みる」「ささえる」による3つの基本方針と、「推進」「活用」「他分野・他団体との連携」からなる3つの基本施策を定め、これら9つの視点からスポーツ推進に取り組みます。

### (1) 「する」スポーツの推進

市民がスポーツを通じて楽しみ、健康的な生活を送る環境づくりを目指します。子ども、女性、高齢者、障がい者それぞれに合った「する」スポーツの機会を提供し、地域や企業をはじめ、他分野・他団体と連携してスポーツ活動を推進します。さらに、競技スポーツの発展を図り、スポーツ実施率の向上を目指すと同時に、スポーツを活用した地域の活性化も図ります。また、効果的な情報発信を通じ、スポーツ体験や施設の利用情報を広め、市民が気軽に「する」スポーツに参加できる環境を整えます。

### (2) 「みる」スポーツの推進

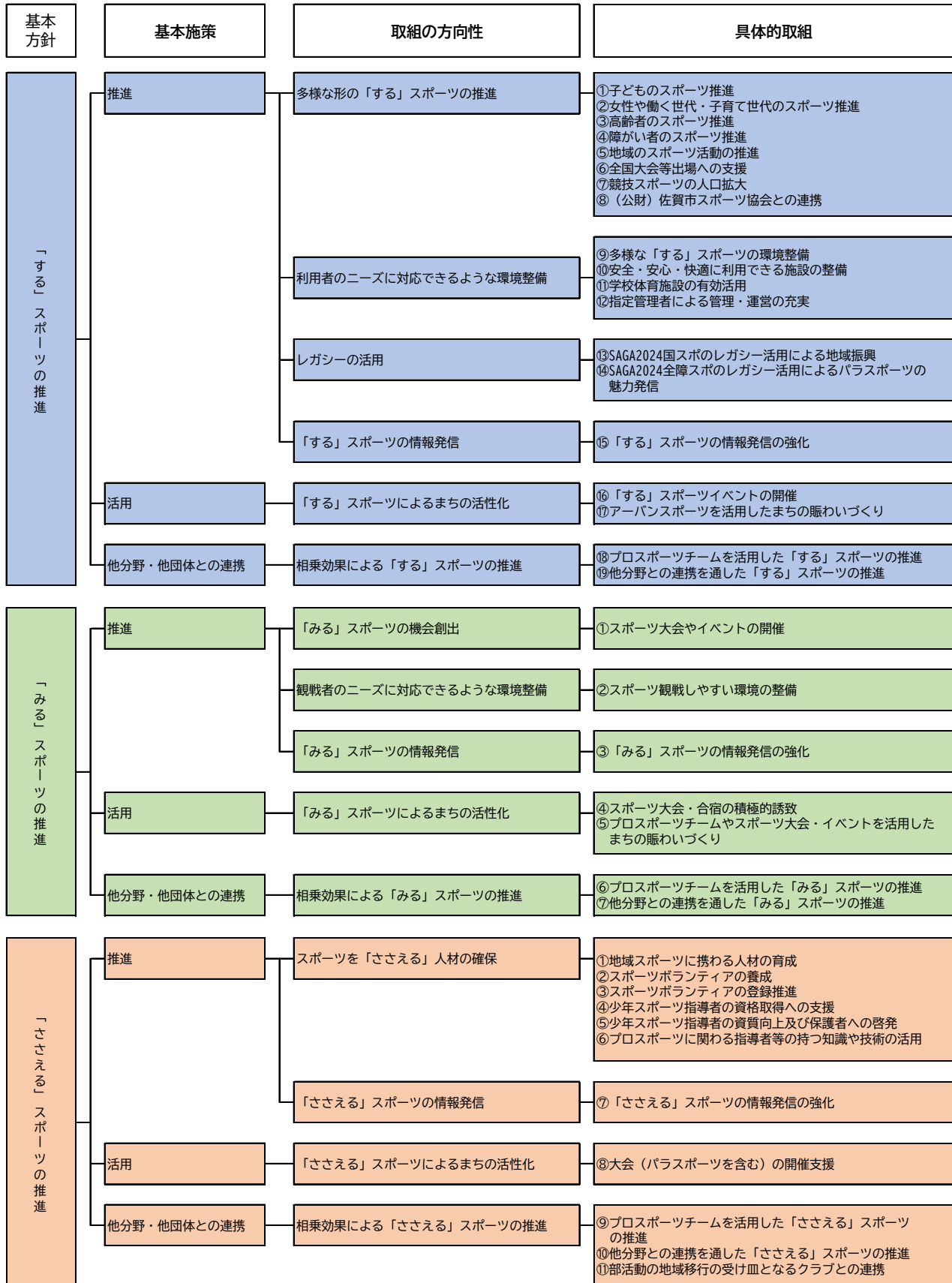
魅力あるスポーツ大会やイベントの開催を通じて、市民が「みる」スポーツを楽しむ機会を増やし、地域の活性化を図ることを目指します。また、スポーツを観戦しやすい環境づくりに取り組みます。さらに、SNSなどを活用した効果的な情報発信により、観戦機会を広げ、プロスポーツチームや他分野・他団体との連携を強化することで、地域振興や経済活性化に貢献します。これにより、交流人口の拡大とまちの賑わいを促進します。

### (3) 「ささえる」スポーツの推進

地域のスポーツ活動を支える人材の育成と、スポーツ大会を含めた支援体制の充実を目指します。スポーツ指導者やスポーツボランティアの発掘・育成、登録推進を行い、資格取得や啓発活動を通じて資質向上を図ります。また、プロスポーツチームの知識や技術を活用して地域の指導力を高めるとともに、効果的な情報発信を行い、ボランティア活動の重要性を広めます。さらに、企業や他分野・他団体との連携を強化し、地域の「ささえる」スポーツ環境の整備を促進します。



## 5 スポーツ推進施策の体系図



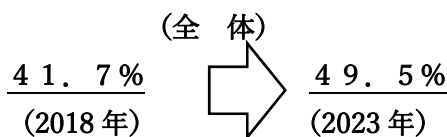
## 第3章 スポーツ推進施策の内容

### 1 「する」スポーツの推進

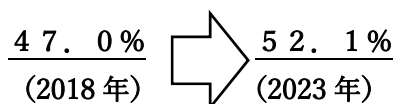
#### (1) 多様な形の「する」スポーツの推進

##### 【現状と課題】

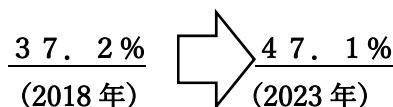
●日常的に（週1日以上）運動やスポーツを行っている人の割合



性別 うち（男性）

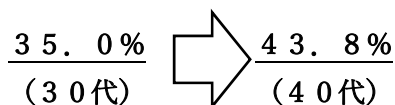


うち（女性）

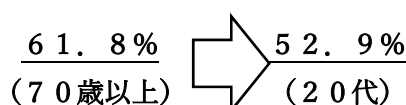


(課題) 女性の実施率が大きく上昇したが、男性よりも低い

年代別 低い方から

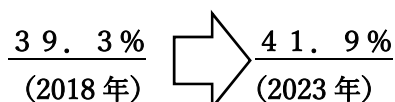


高い方から



(課題) 30歳から50歳を中心とした「子育て世代」「働き盛り世代」の実施率が低い

障がい者対象



(課題) 健常者に比べ、障がい者の実施率が低い

●運動・スポーツしない理由

「仕事や家事が忙しいから」約5割

(課題) 女性やビジネスパーソンの実施率が低い

●参加したいスポーツ行事

①野外活動的行事（キャンプ、ハイキングなど） ②レクリエーション的行事（運動会など）

(課題) 女性は、「教室」型、男性は「競技型」への関心があり、性別での傾向に差があることを考慮したニーズに応じたイベント開催

## 【目標】

すべての世代や背景の人々がスポーツに親しみ、健康的な生活を送ることができる環境を整えること  
を目指します。具体的には、子どもや女性、働く世代、高齢者、障がい者がスポーツを継続できる環境を  
提供し、地域や企業と連携してスポーツ活動を推進します。また、地域コミュニティの活性化や競技スポ  
ーツの発展を目指し、スポーツの普及と支援体制の強化を図ります。これにより、地域全体のスポーツ実  
施率を向上させます。

## 【具体的取組】

### ① 子どものスポーツ推進

子どもがスポーツに対する苦手意識を持たず、大人になってもスポーツを続けていけるように、幼少期から体を動かす体験等の機会を設けるなど、子どものスポーツ実施を推進します。

### ② 女性や働く世代・子育て世代のスポーツ推進

スポーツ実施率の低い層に対して、課題と対策を明確にし、企業と連携した事業の展開や、ニーズに対応した参加しやすい教室等を実施するなど、スポーツ実施率の向上を図ります。

例：企業内スポーツ活動推進

企業のレクリエーションで、誰もが楽しめるニュースポーツ等を実施し、スポーツをする時間を設ける等

### ③ 高齢者のスポーツ推進

健康・体力の保持の観点から、ニュースポーツなど、体力の低下に配慮したスポーツを継続できる事業を実施します。

そのため、各地域において徒歩圏内でのスポーツレクリエーション活動を行い、在宅でもできるスポーツについても、普及啓発していきます。

### ④ 障がい者のスポーツ推進

障がい者が地域の身近な場所でスポーツが実施できるよう環境を整備し、スポーツをするきっかけづくりに取り組みます。また、障がいの有無にかかわらず、一緒に参加できるスポーツ行事を実施します。



### ⑤ 地域のスポーツ活動の推進

地域コミュニティの再生・活性化のため、スポーツを通じた地域住民の交流を促します。また、外国人留学生や外国人労働者も、地域でスポーツを楽しめる環境作りを進めます。これらのため、スポーツ推進委員協議会をはじめ、校区体育（スポーツ）協会・競技団体、総合型地域スポーツクラブやまちづくり協議会が連携し、それぞれが実施するイベント等の情報を共有していきます。

### ⑥ 全国大会等出場への支援

社会体育で活動している小中学生の九州・全国大会等への出場に対し、支援を行います。

### ⑦ 競技スポーツの人口拡大

少年期において、様々なスポーツに触れる機会を創出し、スポーツ実施率の向上を図ります。そのために県や関係機関と連携し、育成のための支援体制を整備します。

なお、県の SSP 構想における本市の役割は、スポーツ文化の裾野拡大であると捉え推進します。

### ⑧ (公財) 佐賀市スポーツ協会との連携

本市の競技団体を統括している(公財)佐賀市スポーツ協会への支援を強化することで、競技スポーツの推進による地域振興を図ります。

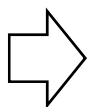


## (2) 利用者のニーズに対応できるような環境整備

### 【現状と課題】

●総合型地域スポーツクラブの  
認知度

6.5%  
(2018年)



7.7%  
(2023年)

(課題) 認知度は僅かに上昇したが、かなり低い

●学校施設開放の利用率

利用したことがある  
24.4%

利用できることを初めて知った  
32.4%

(課題) 身近にスポーツを行う環境の存在を案内する(周知させる)

●運動・スポーツ実施場所

自宅・友人宅  
32.0%

市立のスポーツ施設  
12.7%

(課題) 市立のスポーツ施設の女性の利用が低い

●市立スポーツ施設への要望

利用料金の引き下げ  
13.6%

運動やスポーツ教室の充実  
12.5%

(課題) 指定管理者による魅力ある自主事業の展開

●市立スポーツ施設予約システム利用率

予約したことがある  
11.0%

(課題) 前回調査からほぼ横ばいであるため、システムの周知と利用率向上の広報が重要

●学校部活動の地域移行のあり  
方の理想

専門的で丁寧な指導  
48.2%

いろいろな年代や年齢の人と  
一緒に活動できる  
12.7%

(課題) 市民のニーズに応える取り組みの検討が必要

### 【目標】

利用者のニーズに応じたスポーツ環境の整備を推進し、安心・安全で快適に利用できる施設を提供します。具体的には、老朽化した施設の改修やユニバーサルデザインの導入を検討し、学校体育施設を市民がより活用できるような運営方法を検討します。また、行政と民間が協力して管理・運営を行うことで、サービスの向上と経営の安定を目指します。

## 【具体的取組】

### ⑨ 多様な「する」スポーツの環境整備

今後需要が見込まれる利用者のニーズに対応できるよう環境の整備を検討します。

### ⑩ 安心・安全・快適に利用できる施設の整備

老朽化に対応した改修や、ユニバーサルデザインの導入などの整備、空調設備の設置検討を行い、誰もが安心・安全・快適に利用できる施設の整備を検討します。

### ⑪ 学校体育施設の有効活用

市民にとって身近なスポーツ活動の場として、「学校体育施設開放運営委員会」と連携してより多くの市民が利用できるような運営方法の検討や見直しを行います。

### ⑫ 指定管理者による管理・運営の推進

行政と民間が協力し、きめ細やかなサービスの提供と経営の安定化を図ります。



### (3) レガシーの活用

#### 【現状と課題】

令和6（2024）年に SAGA2024 国スポ・全障スポが開催され、市民のスポーツに対する関心がより一層高まりました。

大会会場となった体育施設の利活用と本大会がもたらしたスポーツへの関心の高まりを持続・発展させる取り組みが求められています。

（課題）SAGA2024 国スポ・全障スポ開催のレガシーの継承・発展

#### 【目標】

SAGA2024 国スポ・全障スポで整備・浸透されたスポーツ施設や障がい者スポーツの魅力を活用し、地域振興とパラスポーツの普及を促進します。

#### 【具体的取組】

##### ⑬ SAGA2024 国スポのレガシー活用による地域振興

SAGA2024 国スポ開催に伴い整備した、富士しゃくなげ湖水上競技場をレガシーとして、合宿誘致や新たな利活用を図ることにより、地域振興につなげます。

また、地域イベントにおいて、デモンストレーションスポーツで実施されたニュースポーツ体験の拡充を図り、地域交流の促進を図ります。



##### ⑭ SAGA2024 全障スポのレガシー活用によるパラスポーツの魅力発信

SAGA2024 全障スポ開催で高まった、パラスポーツの魅力を継続的に情報発信していきます。



#### (4)「する」スポーツの情報発信

##### 【現状と課題】

●市のスポーツ情報の収集手段	テレビ	市報	新聞・雑誌
	56.4%	51.1%	32.7%

(課題) SNS を活用した情報発信の強化

##### 【目標】

「する」スポーツの機会充実につながる効果的な情報発信の強化を目指します。

##### 【具体的取組】

##### ⑮ 「する」スポーツの情報発信の強化

スポーツ体験会・教室やスポーツ施設以外でも運動できる場所の情報提供等を行い、気軽にスポーツを実施する機運を高めます。



## (5) 「する」スポーツによるまちの活性化

### 【現状と課題】

子どもや若者に人気が高いアーバンスポーツなど、多種多様なスポーツへの関心が高まっている。

(課題) 関心が高まっている新たなスポーツの活用

### 【目標】

スポーツイベントやアーバンスポーツ等を活用し、交流人口の拡大による地域活性化やまちの賑わいづくりを目指します。

### 【具体的取組】

#### ⑩ 「する」スポーツイベントの開催

さが桜マラソンや佐賀インターナショナルバルーンフェスタなどを開催することで、多くの人を呼び込み、スポーツによる交流人口の拡大を図ります。併せて、スポーツへの関心を高めることで、スポーツ実施者を増やすことにつなげます。

#### ⑪ アーバンスポーツを活用したまちの賑わいづくり

子どもや若者に人気があるスケートボードなどのアーバンスポーツを活用し、まちの賑わいづくりにつなげます。併せて、子どもや若者のスポーツ実施率の向上を図ります。



## (6) 相乗効果による「する」スポーツの推進

### 【現状と課題】

●プロスポーツの観戦方法	テレビ等 <u>68.1%</u>	試合会場のみ <u>4.6%</u>	どちらもした <u>24.0%</u>
(課題) 会場での観戦者数を伸ばす取り組み			
●トップレベルのチームや選手との交流	ある <u>12.9%</u>	ない <u>87.1%</u>	
●トップチーム等の合宿・キャンプ誘致の是非	積極的に誘致すべき <u>64.6%</u>	誘致する必要はない <u>2.7%</u>	
●キャンプを積極的に誘致すべき理由	地域が活性化する <u>69.2%</u>	スポーツに関心を持つ人が増える <u>46.3%</u>	

(課題) トップレベルのチームや選手との交流を増やすための積極的な誘致

### 【目標】

プロスポーツチームや他分野・他団体との連携を活用し、市民がスポーツを楽しむきっかけを提供することを通じてスポーツ実施率の向上を目指します。

### 【具体的取組】

#### ⑱ プロスポーツチームを活用した「する」スポーツの推進

市民がプロスポーツ選手等と触れ合い、体を動かすことの楽しさを実感してもらう取り組みを行うなど、スポーツを行うきっかけづくりにプロスポーツチームを活用します。

例：プロスポーツ選手等が小学校に出向き、スポーツ教室を行い、体を動かすことの楽しさを実感してもらう等

#### ⑲ 他分野との連携を通じた「する」スポーツの推進

他分野と連携することにより、お互いの相乗効果を図り、するスポーツの推進を行います。

例：保健福祉部との連携等



## 2 「みる」スポーツの推進

### (1) 「みる」スポーツの機会創出

#### 【現状と課題】

● 「みる」スポーツの意味合い

話題として必要

24.7%

生活を豊かにするため必要

23.0%

(課題) 市民の生活の豊かさにつながる魅力ある大会やイベントの開催

#### 【目標】

「みる」スポーツの機会創出につながる魅力ある大会やイベントの開催を目指します。

#### 【具体的取組】

##### ① スポーツ大会やイベントの開催

スポーツ大会やスポーツイベントを開催することにより、スポーツをみる機会を創出します。



## (2) 観戦者のニーズに対応できるような環境整備

### 【現状と課題】

●障がい者のプロスポーツ観戦方法	テレビ等	試合会場のみ	どちらもした
	78.7%	3.5%	16.3%

(課題) 試合会場での観戦割合を上げるためのスポーツ観戦しやすい環境の整備

### 【目標】

誰もが「みる」スポーツに参加したくなる環境の構築を目指します。

### 【具体的取組】

#### ② スポーツ観戦しやすい環境の整備

障がいの有無にかかわらず、誰もがスポーツ観戦しやすい環境づくりを行うことで、みるスポーツの推進を図ります。

## (3) 「みる」スポーツの情報発信

### 【現状と課題】

市内で開催される「みる」スポーツに関わる情報を集約し、年代や障がいの有無に応じた、全ての市民に素早く効果的に届ける手段の工夫が課題となります。

### 【目標】

「みる」スポーツの機会充実につながる効果的な情報発信の強化を目指します。

### 【具体的取組】

#### ③ 「みる」スポーツの情報発信の強化

市民がスポーツを「みる」機会を増やすため、SNSなどを用い、市内で開催されるスポーツ大会や市民が参加できるスポーツ大会等の情報提供を進め、スポーツ観戦の機会を創出します。



#### (4)「みる」スポーツによるまちの活性化

##### 【現状と課題】

●プロスポーツの観戦方法	テレビ等	試合会場のみ	どちらもした
	68.1%	4.6%	24.0%
●トップレベルのチームや選手との交流	ある	ない	
	12.9%	87.1%	

(課題) スポーツを通じた地域活性化に対する期待は高いが、プロスポーツを会場で観戦する割合やトップレベルのチームや選手との交流を経験した割合が低い

##### 【目標】

スポーツ大会やイベント、合宿の誘致やプロスポーツチームとの連携を活用し、交流人口の拡大などによるまちの活性化や賑わいづくりを目指します。

##### 【具体的取組】

#### ④ スポーツ大会・合宿の積極的誘致

国内外からのスポーツ大会・合宿等を誘致し、スポーツを「みる」機会を創出し、多くのひとを呼び込み、交流人口の拡大を図ります。



#### ⑤ プロスポーツチームやスポーツ大会・イベントを活用したまちの賑わいづくり

プロスポーツチームとの連携を強化し、スポーツが持つ経済的価値や社会的価値を地域振興につなげる取り組みを行います。



## (5) 相乗効果による「みる」スポーツの推進

### 【現状と課題】

● トップチーム等の合宿・キャンプ誘致の是非	積極的に誘致すべき <u>64.6%</u>	誘致する必要はない <u>2.7%</u>
● キャンプを積極的に誘致すべき理由	地域が活性化する <u>69.2%</u>	スポーツに関心を持つ人が増える <u>46.3%</u>

(課題) プロスポーツチーム等のさらなる活用促進

### 【目標】

プロスポーツチームや他分野・他団体との連携を通して「みる」スポーツの魅力を広め、地域の経済活性化に貢献することを目指します。

### 【具体的取組】

#### ⑥ プロスポーツチームを活用した「みる」スポーツの推進

市民にスポーツの魅力を伝えるために、影響力の大きいプロスポーツチームを活用し、効果的な情報発信を行います。

#### ⑦ 他分野との連携を通じた「みる」スポーツの推進

他分野と連携することにより、お互いの相乗効果を図り、みるスポーツの推進を行います。

例：経済部との連携

プロスポーツ試合時に、アプリやクーポン等を使い、観客をまちなかに誘導する等の中心市街地活性化策と連携する等

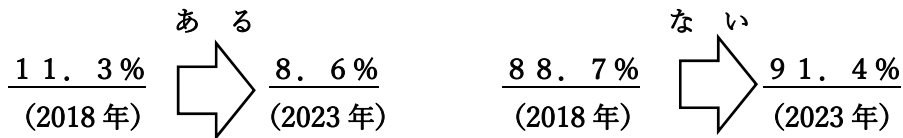


### 3 「ささえる」スポーツの推進

#### (1) スポーツを「ささえる」人材の確保

##### 【現状と課題】

●スポーツボランティアへの参加の有無



(課題) スポーツの担い手不足

●スポーツボランティアへの参加の理由

##### (参加した理由)

スポーツ関係団体から頼まれて

32.6%

地域や町内会に頼まれて

27.9%

自ら応募した

18.6%

##### (参加しなかった理由)

知らない、参加方法がよくわからない

28.2%

忙しい

16.8%

興味・関心がない

11.2%

●今後のスポーツボランティアへの参加意識

(ぜひ・できれば) 行いたい

25.0%

まったく行いたいと思わない

16.4%

(課題) 自発的にスポーツボランティアに参加する人を増やす取り組みが必要

##### 【目標】

地域スポーツ活動を支える人材の育成と支援体制の充実を目指します。具体的には、地域スポーツ指導者の発掘・育成を進め、スポーツボランティアを養成し、登録を推進します。また、少年スポーツ指導者の資格取得を支援し、指導者や保護者への啓発活動を通じて、子どものスポーツの発展を促進します。さらに、プロスポーツの知識や技術を活用し、地域のスポーツ指導力向上を目指します。

## 【具体的取組】

### ① 地域スポーツに携わる人材の育成

市民にとって、身近な場所（地域）での運動・スポーツ活動を支援するため、地域における指導者や各地域においてスポーツイベント・教室の企画・運営を行う人材の発掘と育成に努めます。

### ② スポーツボランティアの養成

より多くのボランティアを養成するため、大学・企業・NPO等と連携し、スポーツボランティアとして「ささえる」スポーツへの関わり方を推進し、定着させ、その活動を支援します。



### ③ スポーツボランティアの登録推進

市民にスポーツボランティア登録の推進を行い、「ささえる」スポーツと「する」スポーツ両者の参加促進が相乗的に得られる好循環を創出します。

### ④ 少年スポーツ指導者の資格取得への支援

「少年スポーツのあり方についての取組方針」に基づき、子どもたちの発達段階に応じた適切な指導が行われるよう、指導者に対し、公的指導者資格取得への支援等を行います。

スポーツ選手をあなたの“チカラ”と“想い”で支えよう!!

# 佐賀市スポーツボランティア登録者募集!

佐賀市の色々なスポーツシーンでお手伝いしていただける「スポーツボランティア」を募集します。専門的な知識や経験がなくても大丈夫。あなたのチカラを佐賀のスポーツシーンに活かしませんか。

さが駅マラソン 助走所

佐賀インラインスケショール/Wルーフェスタ

遠征ボランティア研修会 →海外選手を受け入れのために→

様々なスポーツフェア 子どもの笑顔を届けます

**対象者**  
市内在住・在学・在勤の18歳以上の方（高校生を除きます。）

**活動内容**  
会場準備や参加者受付、イベント補助など。

登録いただいた方には、スポーツボランティアを募集しているイベントの情報などをメールでお知らせしますので、興味がある大会や、都合が合うイベントを選んでご参加ください。

市民スポーツ合衆

### ⑤ 少年スポーツ指導者の資質向上及び保護者への啓発

少年期のスポーツ実施では、生涯にわたってスポーツに親しむことができる基礎を培うことが必要であり、子どものスポーツ実施に大きな影響を持つ指導者と保護者に対して講習会等を実施します。

### ⑥ プロスポーツに関わる指導者等の持つ知識や技術の活用

プロスポーツチームの指導者等が持つ知識や技術を活用し、市内のスポーツ指導者の指導力向上につなげるための機会を創出します。



## (2) 「ささえる」スポーツの情報発信

### 【現状と課題】

●スポーツボランティアへの  
参加しなかった理由

知らない、参加方法がよくわからない

28.2%

忙しい

16.8%

興味・関心がない

11.2%

(課題) スポーツボランティアに関する情報発信の不足

### 【目標】

「ささえる」スポーツの機会充実につながる効果的な情報発信の強化を目指します。

### 【具体的取組】

#### ⑦ 「ささえる」スポーツの情報発信の強化

スポーツボランティア等の情報や地域のスポーツクラブ等の情報をホームページ等に掲載し、積極的な情報発信を行います。

## (3) 「ささえる」スポーツによるまちの活性化

### 【現状と課題】

競技大会は、日頃の成果を発揮する場、市民にとってはトップレベルの技を目にすることができる絶好の機会であることから、選手やチーム等への支援や各種大会の運営への支援を県や(公財)佐賀市スポーツ協会及び各競技団体と連携を図りながら行っていくことが求められます。

### 【目標】

本市で開催する各種競技大会を支援し、多くの大会が開催されることで交流人口の拡大を図り、まちの活性化を目指します。

### 【具体的取組】

#### ⑧ 大会(パラスポーツも含む)の開催支援

各競技団体や関係機関、組織等が本市で開催する競技大会を支援し、市民の競技力向上につながる機会を提供します。



#### (4) 相乗効果による「ささえる」スポーツの推進

##### 【現状と課題】

●今後のスポーツボランティア  
への参加意識

(ぜひ・できれば) 行いたい

25.0%

まったく行いたいと思わない

16.4%

(課題) スポーツボランティアに前向きな意向を持つ方へのアプローチ不足

##### 【目標】

プロスポーツチームの影響力を活用し、効果的な情報発信を行うとともに、他分野や企業の CSR 活動と連携し、ボランティアの役割を強化します。また、部活動の地域移行に伴い、受け皿となるクラブや団体との協力を促進し、円滑な移行を支援することで、地域に根ざしたスポーツ環境の整備を目指します。

##### 【具体的取組】

#### ⑨ プロスポーツチームを活用した「ささえる」スポーツの推進

スポーツボランティア等のささえるスポーツの魅力を伝えるために、影響力の大きいプロスポーツチームを活用し、効果的な情報発信を行います。

#### ⑩ 他分野との連携を通じた「ささえる」スポーツの推進

他分野と連携することにより、お互いの相乗効果を図り、ささえるスポーツの推進を行います。

例：企業との連携

大規模スポーツイベント時に、ボランティア等に関して、企業の CSR 活動との連携を図る等

#### ⑪ 部活動の地域移行の受け皿となるクラブとの連携

部活動の地域移行に伴い受け皿となる可能性がある団体との連携を図り、受け皿づくりを推進します。





## 第3次佐賀市スポーツ推進計画

令和7年3月

編集  
・  
発行

佐賀市地域振興部  
スポーツ振興課

佐賀市大財三丁目11番21号  
TEL:0952-40-7360 FAX:0952-40-7375  
E-mail:sports@city.saga.lg.jp

